

研究発表申込フォーム

氏名：ガンゾリグ・ゾルザヤ、阪井士紋

氏名のローマ字表記：GANZORIG Zolzaya, SAKAI Shimon

所属：立命館大学政策科学研究科博士課程後期課程院生

専門分野：日本モンゴルの経済協力・経済連携協定（ガンゾリグ）、日本とモンゴルの安全保障協力（阪井）、人道支援・災害救援（阪井）

発表のタイトル（日本語）：日モ関係に見る民主主義の定着とさらなる関係深化のプロセス

発表のタイトル（英語訳）：Democratic Consolidation and Pathways to Deeper Engagement in Japan–Mongolia Relations.

発表要旨（日本語で 600 字～800 字程度）：

今年 7 月に行われた天皇のモンゴル訪問は両国間関係がかつてないほどに良好な関係にあることを示した。両国関係は 1996 年の「総合的パートナーシップ」から、「戦略的パートナーシップ」、「平和と繁栄のための特別な戦略的パートナーシップ」へとステップアップしてきた。本報告はかつてないほどに良好な両国間関係について、これに至るまでの経緯を、①開発援助、②経済協力、③安全保障協力の 3 点から振り返り、モンゴルにおける民主主義の定着と、民主主義の定着を基盤としたさらなる関係強化の好循環について議論する。

モンゴルは、20 世初頭におけるボグド・ハーン政権の「第三の隣国」政策以来、西側諸国との関係強化を目指した。日本もこの第三の隣国のうちのひとつであり、現在まで良好な関係にある。1990 年の民主化以降、モンゴルは市場経済と議会制民主主義を基盤とする新体制を模索したが、急激な体制転換は深刻な経済危機を伴った。この過程で日本は最大の援助国として早期から積極的に関与し、ODA を通じたインフラ整備や医療・教育分野への支援を展開した。また、市場経済化を支える制度構築や人材育成にも注力し、民主主義と経済基盤の安定化を後押しした。さらに、2000 年代以降は投資促進や資源開発協力を通じて援助依存から経済パートナーシップへの転換を志向し、その一環としてモンゴルは自国初の EPA を日本と締結した。安全保障協力においては、モンゴルの UNPKO への参画や国内の議会制民主主義の定着といったモンゴル自身の努力により、安全保障環境が厳しくなった北東アジアにおいて、中ロに挟まれた民主主義国として、日本にとって安全保障面においても重要なパートナーであると認識させるに至った。

本報告は日本の援助とモンゴルの努力によってなされた国内の民主主義の定着が、安全保障協力といった新たな領域での協力を促したことに注目し、これを民主主義の定着における一つのモデルとみなすことを試みる。